

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

# 第2集

(長野県道 1 号線~508 号線)

NO.09 ビーナズラインは山火事に

(長野県道 194 号走破) (長野県道 192 号走破) (長野県道 460 号走破)

NO.10 ハヶ岳の北に広がる裾の台地・望月に通ずる県道を走る

(長野県道 150 号走破) (長野県道 151 号走破) (長野県道 152 号走破) (長野県道 482 号走破)

NO.11 阿南町の飯田線と国道151号線を結ぶ県道

(県道 113 号走破) (県道 242 号走破) (県道 244 号走破)

NO.12 奥志賀高原栄線(県道 502 号)と奥志賀公園線(県道 471 号)

(長野県道 502 号走破) (長野県道 471 号走破)

NO.13 旧国道 19 号線が県道 295 号線に

(長野県道 295 号走破=旧国道 19 号の 1 部) (県道 23 号走破)

NO.14 実家の県町南について少し歴史を知りたかった

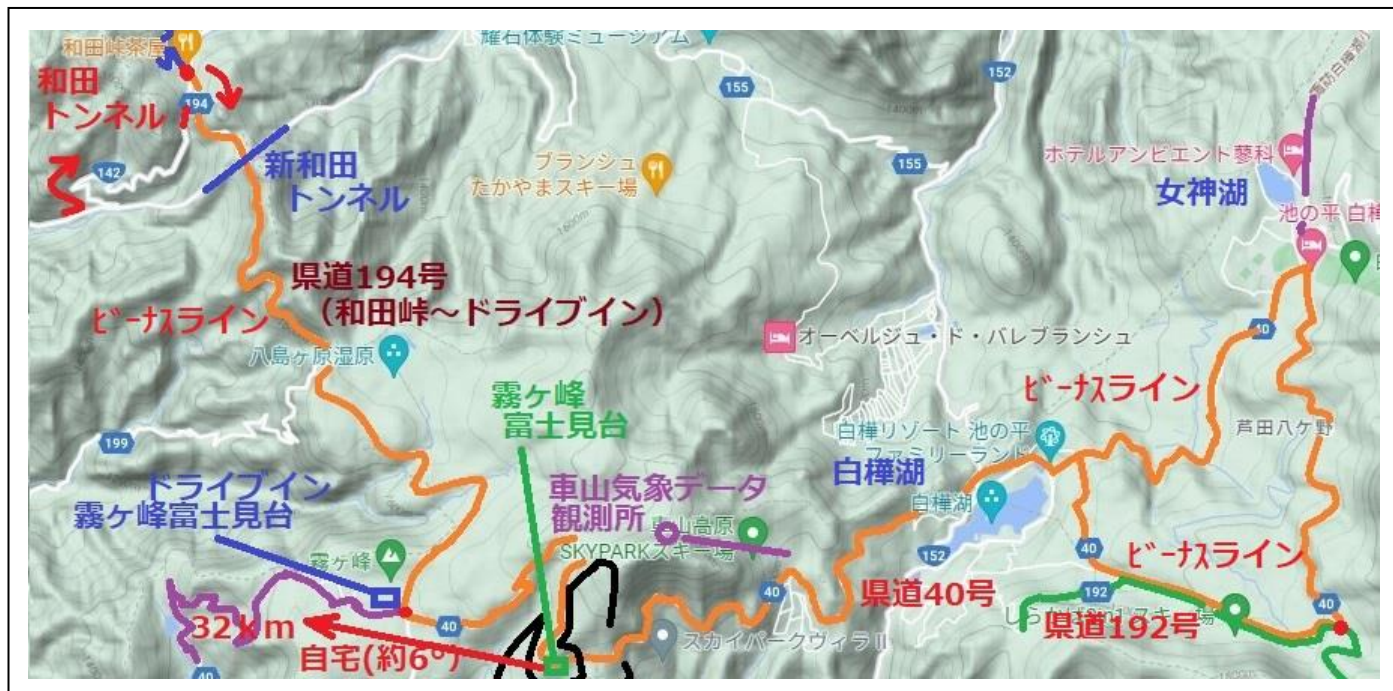
## ビーナスラインは山火事に

澤田 繁 著

(長野県道 194 号走破) (長野県道 192 号走破) (長野県道 460 号走破)

2023年5月7日、天気晴れ、1年に何度か行く霧ヶ峰富士見台に向かいました。自宅(清水高原)から1時間半弱で到達する気軽さと眺望のすばらしさが魅力のコースです。自宅から塩尻北インターまで35分~40分そこから岡谷インターを出て湖北南トンネル(国道142号)に入り新和田トンネル手前300m(中山道和田峠西餅茶屋跡の表示の先400m)を左折し和田トンネル手前で赤信号ストップ、トンネルを過ぎ少し下ってまた登るとビーナスラインに、ここ和田峠からドライブイン霧ヶ峰富士見台までのビーナスラインは県道194号線となる。ドライブインからは諏訪市街からの県道40号(諏訪白樺湖小諸線)がビーナスラインを引き継ぐ、ドライブインを過ぎたあたりから山火事あとがくっきり見えるようになった。山火事のまっただ中に霧ヶ峰富士見台があった。塩尻北インターから50分ほどで到着しました。

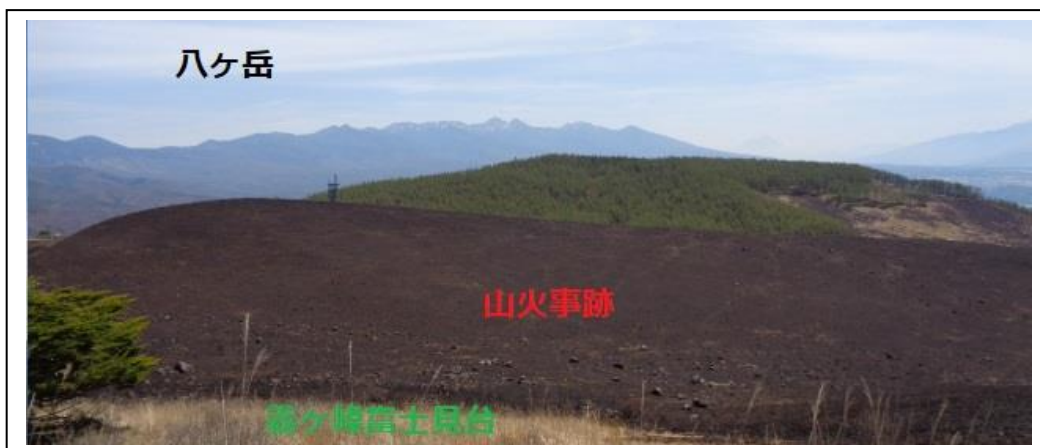
富士見台には食堂と売店がありソフトクリームや五平餅を食べた事がある。このまわりは山火事のあとがくっきり多分消防の方が必死に守ってくれたに違いない(感謝)、山火事は5月4日の午後1時半の通報で富士見台からほぼ南約900m先のカボチャ山頂上付近から煙が出ていることから始まり富士見台に向かって火の手が広がっていった。枯草の高原はなかなか鎮火せず翌朝の7時前までかかってしまいました。



富士見台の眺望は素晴らしく、特に高い山に雪が残っている時期がいい、東から八ヶ岳・富士山・甲斐駒・仙丈・木曾駒・御嶽・乗鞍・槍穂高まで見える。

清水高原の自宅から富士見台が見えるかどうか確信がなかったが4日夕方火事が見えるか自宅から見にいき煙が確認できたので確信した。

標高・富士見台 1710m  
自宅 1230m



この日のドライブは、ビーナスラインを女神湖までいきビーナスラインを外れ望月方面に向かい県道 482 号などを走り帰宅しました。

和田峠から白樺湖の間での行動では、霧ヶ峰富士見台では必ず駐車して景色を眺めるのは前述したが、ドライブイン霧ヶ峰ではよくじゃがバターを食べながらの休憩も数回、かなり前、屋島湿原を少し歩いたのが 1 回、2017 年には車山のリフトによって展望台までが 1 回、白樺湖のファミリーランドは孫たちと数回入場した。ニッコウキスゲの群生地を見たいと 7 月に行くときは常に思っています、1 度だけトライしてみましたが歩く距離にまけてすぐ断念しました、歩きが少ない場所を見つけ再挑戦したいと思います。

白樺湖から茅野市街までのビーナスラインは蓼科山のふもとを過ぎるとひたすら下るイメージが多かった。ビーナスラインを外れた県道を走るうちにこの区間のビーナスラインで立ち寄るところが増えました。この区間の県道は 192 号線が主体となっていますので県道 192 号線制覇を中心に書いてみます。2021 年 10 月 26 日白樺湖から 192 号線の終点である八子ヶ峰公園/八子ヶ峰ホテルまでドライブし白樺湖まで戻り大河原峠を

通り佐久まで、2022.5.3 には白樺湖から八子ヶ峰公園からの 192 号線に合流し茅野市を目指しました。途中何度目かの蓼科湖と初めての蓼科高原バラクライングリッシュガーデンに寄りました。その日は御座石神社交差点から 192 号線を外れ国道 152 号線のビーナスライン（かつて茅野道路として有料区間があった）スタート地点に向かい諏訪 IC から帰宅した。

192 号線の残りの区間茅野駅から御座石神社交差点まで



はかつての国道 152 号線であったようで、記録によれば 2021.2.16 茅野市周辺を走ったときに走破しており

りこれで 192 号線完走だ！。

ビーナスラインの美ヶ原区間に移る前に、192 号線で気になっていた北八ヶ岳ロープウェイの看板があり、ついに 2022.10.11 岡谷インターからビーナスラインに入り立ち寄った事を記します。出発駅のレストランで昼食を食べ、ロープウェイに乗りました。降りたところから予想もなかった坪庭の散策が始まりました、火山の石の山道、なにか子供頃の未知の世界への冒険の気分になりました。

坪庭：標高 2237（山頂駅）から上  
50~60 種類の高山植物  
1 周 1000m（30~40 分）



ビーナスラインは観光道路として開発された道路で、軽井沢から上高地までの大規模観光道路と「中信高原スカイライン」の1部として始まったようだ。昭和39年中信高原線として、松本市本郷三才山から南佐久村八郡までが計画された。ビーナスライン（茅野市から和田峠）としては、茅野市から和田峠までが昭和45年に開通したが、霧ヶ峰の自然保護のため山の頂上を通らない路線に変更された。和田峠から美ヶ原までのル



駐車場までは車で登っている。王ヶ頭(2034m)・王ヶ鼻とも景色が抜群によく、アルプス・八ヶ岳などの360度展望できる(40座を超える日本100名山が1か所で見える)。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

トは特に美ヶ原の台上を通り美鈴湖に抜けるルートが、民間を含んだ自然保護活動のために見直しが求められ環境庁の結論で尾根筋と美ヶ原台上通過は認めないとの通達があり、和田峠から扉峠は和田まわりルートで、扉峠からは、美ヶ原台上通過ルートの改正し美ヶ原線和田回りルートにて着工した。美ヶ原高原美術館付近までは昭和56年4月に開通し松本までは至らないビーナスライン76kmが完成した。

美ヶ原高原美術館から和田峠まで(県道460号線)は山岳道路でそれなりの運転が必要となる、まあ景色としたら日本アルプスが見える区間なのだが環境に配慮されほとんど見えない状態がつづく、植林された唐松がこんな山奥までをと思わせる箇所でもある、ただ私の家(約1200m)の唐松に比べ成長が著しく遅いことがわかる。

県道制覇日誌によると2020.6.23(扉～和田峠)と2020.8.18(美ヶ原高原美術館付近～扉峠)に走っています。その後2回は扉峠を通過しています。

美ヶ原を松本市街(私の実家)から見ると台上には見えず、王ヶ鼻が薄川の谷の中央にかつこよくどんと座っている。台上の中心の王ヶ頭は市街から南西にいくと見える。また上田からはまさに台上に見える。

浅間温泉から美鈴湖は小学生のころのスケートの道(バスには乗せてもらえませんでした)、袴腰にはスキー場があり20歳代の時2回ほどバスで行った道路、それから数回この道の終点の王ヶ頭下の

《長野県山形村》(やまがたむら) 2023.5.7

## 八ヶ岳の北に広がる裾の台地・望月に通ずる県道を走る

澤田 繁 著

(長野県道 150 号走破) (長野県道 151 号走破) (長野県道 152 号走破) (長野県道 482 号走破)

八ヶ岳連峰は裾野が広大に広がる山脈である。今回(2023.5.7)は八ヶ岳周辺の最後の県道である482号線を走破しに出かけました。県道40号線を蓼科山から北に下って行くと県道152号線との分岐点に、そこを右に入ると県道152号線(雨境望月線)に入った。2022.6.21に一度終点である望月交差点(国道142号交点)まで走破した路線です。数キロ程走ると県道482号線(大木浅田切線)の開始点に出る。ここから春日温泉が残っている部分である。2023.1.24に雪が少なかったので挑戦したのだが冬季通行止めには勝てなかった。このまま望月少年自然の家まで蓼科山の方に登り返し、ここからは横に下に横に下に移動して途中なだらかな斜面に牧場があったり、ゴルフ場があったりして、最後は尾根から谷におり春日温泉に到着した。まだまだ482号線は東に延びていますが、482号線を2022.11.22に春日温泉から尾根と谷を越えて登ったところの高原風な広い農地が広がる長者原地域に出ました、このときこんなところとかなり驚きましたが広大な裾野のためまだまだ知らないかなだらかな場所が多くあるような気がした。ここから谷に降りていくと県道150号と交わりここが482号線の終点となる。



道の駅ヘルシーテラス佐久南に立ち寄ると長者原の農産物が置いてある、レタス、キャベツ、白菜等高原野菜が中心で長芋も栽培している。

道の駅から国道142号さらに141号の美里南の交差点から県道150号(百沢白田線)が始まる。

2021.11.23にここを始点に蓼科スカイラインを横切り482交点を北に進み百沢の国道142号交点の布施交差点まで走破した。

この日は春日温泉から2022.11.22に完走した151号線(湯沢望月線)をもう一度走った。春日温泉は300年以上も続く温泉で低刺激で温泉療法に適しているアルカリ性の単純温泉であるが入った事はまだない。しばらく走ると春日商店街(?)に入り、五郎平衛用水米取り入れ口を通過し、国道142号線の望月交差点を通過しさらに望月宿の方に進むと県道166号と合流し右に曲がり布施交差点で終了。

県道166号線との交点を左に曲がって400mくらい行くと望月宿の中心に達する。

## 阿南町の飯田線と国道 151 号線を結ぶ県道

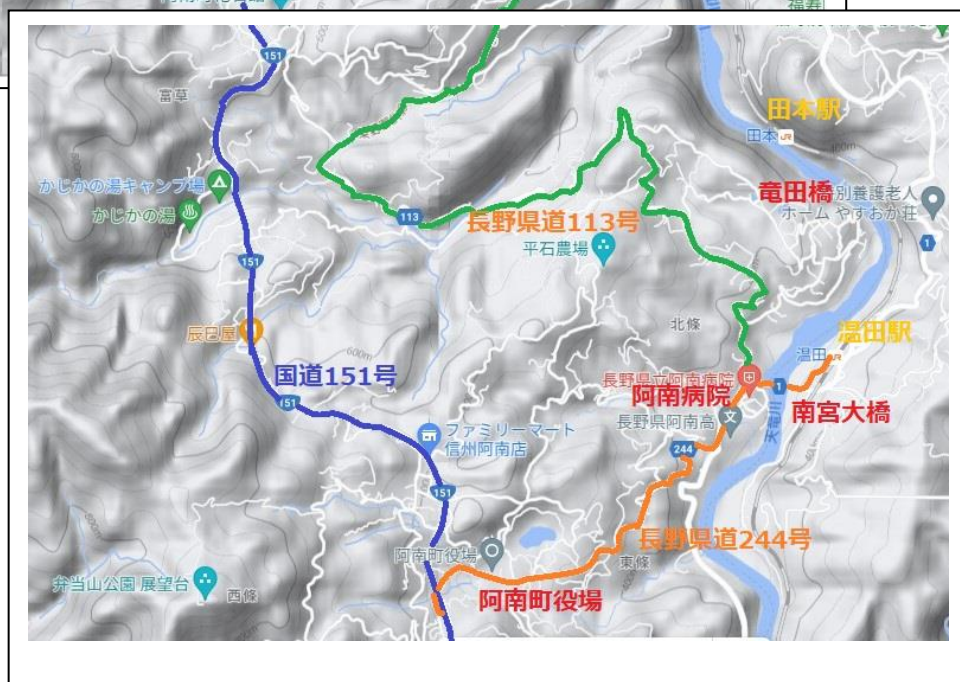
澤田 繁 著

(県道 113 号走破) (県道 242 号走破) (県道 244 号走破)

飯田線の門島<sup>かどしま</sup>駅から田本駅<sup>ぬくた</sup>を経て温田駅までの間の天竜川東岸添いを走ってはいるがこの間の天竜川は渓谷まではいかないがやや深い谷間を流れているイメージです。西岸に向かって門島駅から門島橋・温田駅から南宮大橋の自動車<sup>かどしま</sup>が通過できる橋がかかっている。田本駅からは南に 500m のところに竜田橋のつり橋があるが自動車は通れない。



2023. 5. 16 国道 151 号線を南下し下條村の南端に国道 151 号の交点を起点とする県道 83 号線に入りました。県道 83 号は門島駅を経て泰阜村から喬木村に通じている。ゆるやかな下りをしばらく下ると泰阜ダムが見えたところで県道 242 号線と合流した(門島駅からここまでは以前走ったので)ここから 151 号線に向かう山あり集落ありで途中県道 113 号線の始点である交点を通過し国道 151 号線に出ました。



しばらく国道 151 号線を走り早稲田交差点を右に曲がり国道 151 線の下を通過し阿南町役場前を通過し温田駅に向かいここもゆるやかな下り路線でした。早稲田交差点から温田駅までが県道 244 号線で 2 車線道路でした。

県道 242 号と 244 号を結ぶように県道 113 号線が山あいをめっている。県道 113 号線は 2023. 1. 31 に走破しており、この道も 83 号線 242 号線とも 1 車線の舗装

道路で地域の人々の生活道路になっている。平日の昼間の走行でしたので、ほとんど対向車に合わない状態でした。

阿南町(あなんちょう)は県内唯一町(まち)といわずに町(ちょう)と呼ぶ町です。明治には数多くの村で構成されていたのはどこも同じですが、昭和 32~34 年に富草村(阿南町の北)と大下条村(中央で県道 244 号)と和合村と旦開村(新野)が合併してできた町のようなのです。道の駅信州新野千石平と温田駅は立ち寄りましたがまだ自然相手の施設が多くある町のようなのです。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2023.5.30

奥志賀高原栄線(県道502号)と奥志賀公園線(県道471号) 澤田 繁 著  
(長野県道502号走破)(長野県道471号走破)

2023.5.30 残っていた栄村からの野沢温泉までの県道502号線走破のため飯山から国道117号線を北上して横倉トンネル手前を右折して県道408号線をに入り千曲川にかかる百合居橋を渡り戻るような経路で1km走ると左に奥志賀の標識が!



と左に奥志賀の標識が!

5月26日に冬季通行止めが解除されたばかりの道で多少不安があったが順調に進む、沿道には赤と白の花の木が、部分的かと思ったが野沢温泉までには結構咲いてはほのかなきれいさが感じられた。この花以前県道119号線の県境に近い黒姫高原を走った時に多く見た、この時も多分二色ウツギではないかと言った覚えがある。

野沢温泉手前に下の景色がよく見えるところで停車をして写真撮影、なべくら高原の下のたんぼ等も見えたがそこその景色でした。

野沢温泉スキー場の中腹に出ました、今日ゴールで県道502号完走しました。今回も野沢温泉の麻釜の前の店屋で温泉饅頭を買って帰途につきました。

野沢温泉から志賀高原までは、2回ほど走っています。この区間県道で言えば502号線と471号線になり路線名称としても、区間はよくわかりませんが「奥志賀スーパー林道」・志賀高原蓮池から秋山郷への分岐点まで?「北信州もみじわかばライン」などと呼ばれている。ここのラインの秋の紅葉はとても見事で車からは長い距離長い時間飽きるほど見る事が出来る。

木島平からかやの平に登る道があり、ほぼ中間地点に出る、また、まだ走っていない秋山郷への分岐点も中間点の近くである。



この路線は冬季は走れないが、昔はよくスキーに来た場所でもある。野沢温泉では上ノ平とかシュナイダーコースが覚えている、志賀高原では当時有名なジャイアントコース、東館山での春スキー等々。

旧国道 19 号線が県道 295 号線に

澤田 繁 著

(長野県道 295 号走破=旧国道 19 号の 1 部) (県道 23 号走破)

子供のころ国道 19 号線は町の中を通過しており、多分バイパスが出来、その後県道 295 号線に変わったと思われる。バイパス工事は 1963 年(昭和 38 年)に始まり 1966 年には完成した、この時私は高校生の時でした。



洗馬宿(塩尻市)に中山道と善光寺街道に分かれT字路があり、善光寺街道はここから北上していく、郷原街道を通り、現国道 19 号を通り村井宿では 19 号から外れまた国道 19 号に戻り平田の交差点で国道 19 号のバイパスと県道 295 号に分岐する。

平田から田川の土手下を走り、多賀神社前にこの辺から田川の橋を渡るまで街道だったおもむきが少し残っている。

多賀神社は、私たちが 50 年弱前に並柳に出来立ての 5 階建県営住宅の 5 階に入った(妻が抽選であつた)ときのお祭りで知った。並柳団地は多賀神社の東 1 km くらいに位置しており、歩いて 15 分くらいでした。通称「お多賀様」と言っており 9 月のお祭り 2 日間のみ、「寿命もち」が売られる、最近山形村に出来たスーパーのツルヤでも販売されている。

当時は神社のそばにある「磯村」菓子店で購入した記憶がある、松本育ちの私は磯村の名前は知っていましたが、出川にもあるのがちょっとおどろきを感じていました。今でも覚えていて寄るときもあります。

田川の橋を渡ったところから深志 2 丁目交差点までは一方通行でしたが、徐々に解消しています。県道 295 号線はこの交差点を左折して、松本駅に向かいます、深志 2 丁目交差点から松本駅までが県道 23 号線となり、さらに国道 143 号線とも共用の形です。

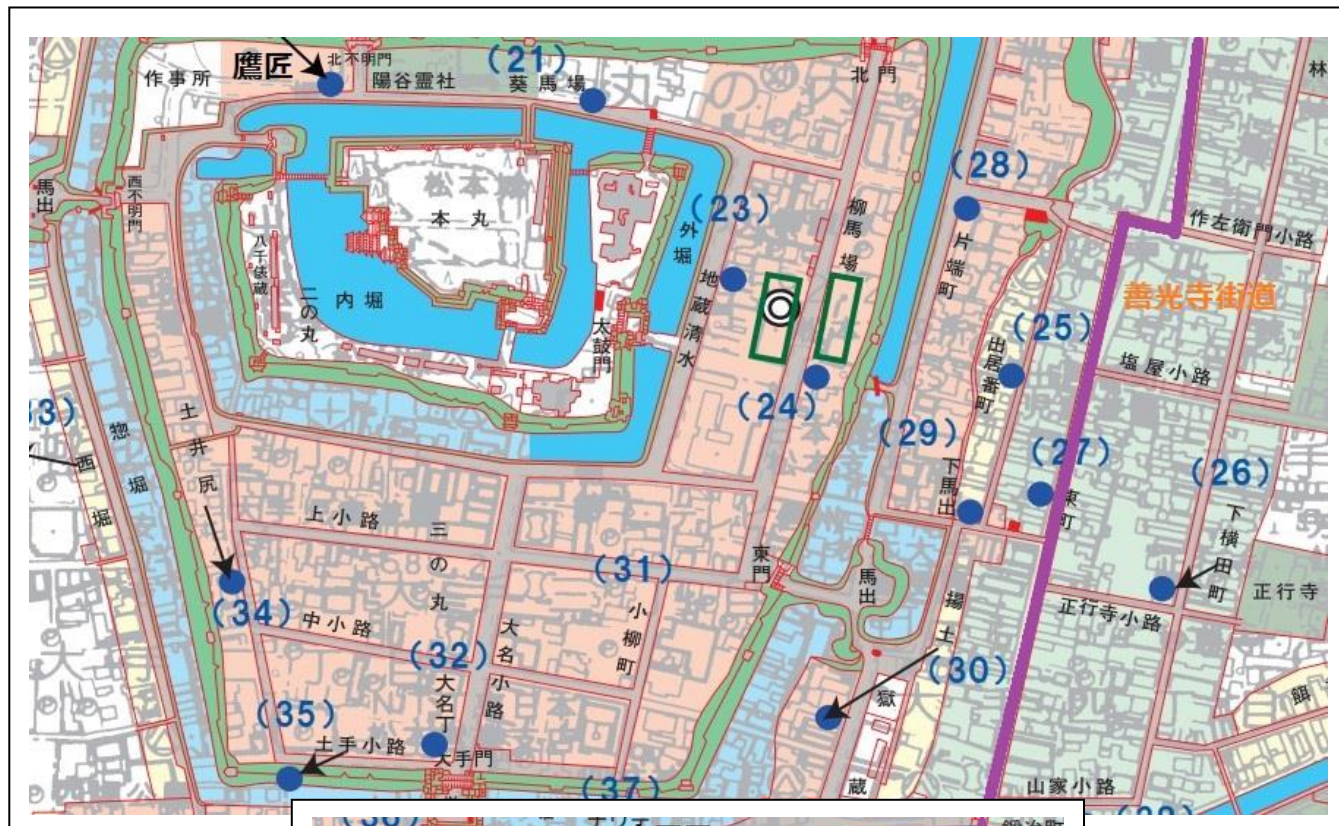


県道 23 号線は「松本停車場線」ですがここに市電が通っており、電車通りと言われていました、中学校時代の松本駅はこの 23 号線の正面に入口があり、入口から北側約 50m くらいのところに出口があり、出口を出たところは広いスペースになっていて中学の修学旅行の解散の場所でした。その北側が市電(松本一浅間温泉)の駅でした。



松本駅から中央1丁目の交差点までは、県道295号と国道143号の共用ですが、国道143号は左折して巾上のガード下を通り終点の渚交差点に向かう。県道295号は北上し大手1丁目の交差点を過ぎて30mくらいで左折する（しばらく一方通行）。道は城山下を通り新橋交差点で国道19号線と合流する。

善光寺街道は深志2丁目の交差点をさらに北上して、城内は通れず中町・東町を通りさらに北上している。松本の古地図（江戸時代）をネットから探して下記に乗せてみました。



松本城の外堀に囲然街道は入っていないいくつかあり、そこ武家は約8000人合わせて2万人の街っていた。武家地として、武家は職分によた、武家地は城内と町人地は街道沿いに地図にない北は、多く最も北の口張町で20町ある（町人町横田）。女鳥羽川の東地があった。

あとの町は地図に人地は南から博労田町・小池町・宮本町・下横田町であと



まれた城内には、当い、外堀の中に門がからの出入りでした。（江戸時代）で町民で地図の他北に広が町人地に分かれていり住居地が定められ城外にも多くあり、広がっている。城外武家屋敷の町がから北門の北馬場まは安原町・和泉町・上上には餌差町の町人しるされている。町町・本町・伊勢町・飯町・中町・鍛冶町・東は武家地となります。

江戸時代末期の松本城下町は、前号の道「13」で触れたが、その延長とも言えます。町屋を中心とした江戸時代からの町の本町・中町・飯田町・小池町・宮村町から東に現在までの町が形成されたのか少し調べてみました。



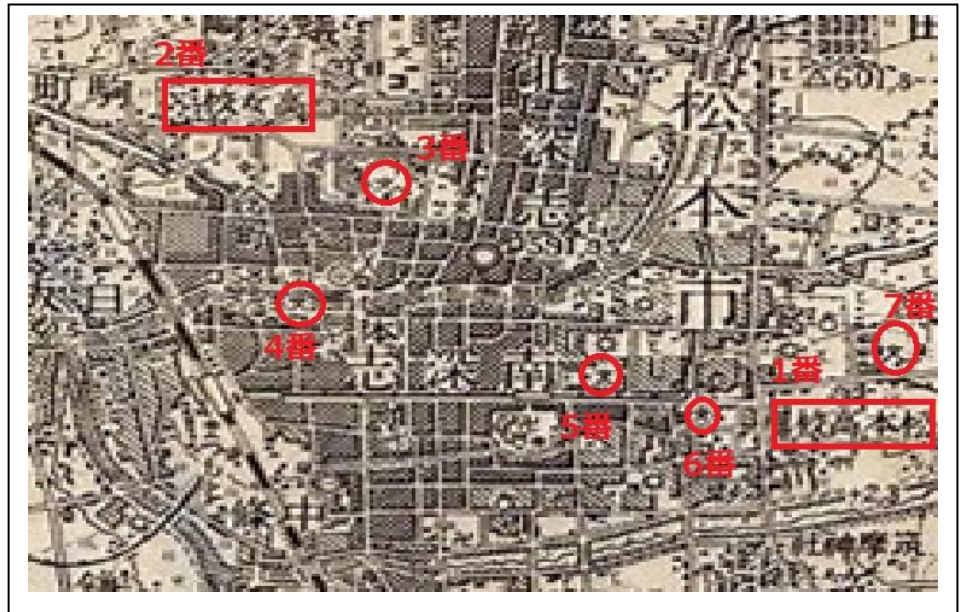
明治初期の古地図を借用して、現在地と同じと思われる筑摩神社と深志神社を元に現在の地図と比較し、いろいろ思い出す事を書いて見ました。まずは深志神社の南を流れる長澤川ですが東にずっと伸びていますが、埋橋・県町付近にも私の小学生頃まであったようなないような曖昧の記憶です。

城下町の宮村町南から深志神社から筑摩神社にむかい林村までの林道が、餌差町の東から山辺に向

かう山辺道が、埋橋耕地から北に向かい山辺道につながっている道はそのまま現在の道になっている。地名の由来を信濃毎日新聞松本専売所WEBによると、埋橋「古代の埴(土器)が埋蔵されていたことから、埴が埋橋になったという。地名の起りは古く中世にも埋橋卿があり、また天正検地帳には埋橋村が記載されている。町名はこの埋橋村を継承したものである。」筑摩「古くは東間々豆加万などと書かれていたが、和銅六年(713)好学令という朝廷の命令により筑摩となった。明治四年筑摩県が置かれてから、「ちくま」となり、古代からの呼称「つかま」を伝えているのはこの地のみである。筑摩東は昭和三十年頃神社東の地域に生まれる。」源池「ここは中世の頃、信濃守小笠原氏の家臣で、名を玄智の屋敷があった。その屋敷に玄智の号に因む「玄智の井戸」があり、「当国第一の名水」として知られていた。歴代の城主は制令を掲げてこれを保護し、藩主の用をはじめ、城下町の飲み水や、酒造用水にも使われていたので、水源という意味も加味して源池とした。」

明治35年に鉄道が松本まで伸びてきて駅が城下町の本町の西に出て町も駅まで増えていった。大正9年旧制松本高等学校が現在のあがたの森の地に創設された際、宮村町から東に、県町・若松町・埋橋・幸町・弥生町・源池の町名が。県町「この地には県の宮や県塚の地名、古代の遺跡があるので、筑摩の県があったところと推定されている。大正九年旧制松本高等学校が現在のあがたの森の地に創設された際、町が造られた。町名は筑摩の県に因むものである。」弥生町「大正九年八月、松本高等学校本館が竣工し、これにともなって本町角から鍋屋小路をへて松高正門までの道路が拡幅され、宮村から県町までが弥生町と名づけられ、大正十一年十一月の松本市議会で承認された。町名の由来は、道路の開通が陽春の候であったのに因むという。」

若松町「大正九年八月、松本高等学校本館が竣工し、それにもなつて周辺道路が整備され、旧松本商業学校跡(右図6番)から中林橋までを若松町と名付けた。町名の由来は、松は竹・梅あるいは鶴とともにめでたい取り合わせとされ、また松本の松にも通じるので、松の若葉のようにみずみずしく発展することを願つて命名された。」幸町「旧源池小学校(右図5番)から中林橋までの南北に長い町で、大正十一年長沢町から分離して新しくできた町である。町名は、この地の開発に貢献した石井祐助氏が父親幸正氏に因んでその一字をとり、また地域の人々の末長い「しあわせ」を願う意味も込めて幸町と名付けられた。」上図は昭和8年の地図です。わかる学校を1番から7番まで印をしました。



2番は、私の母が通つた松本高等女学校で、学問の他、軟式テニスを教わつた。小学生の私も源池小学校や松商学園などのテニスコートによく使われました。設立は1901年(明治34年)で大正9年には長野県松本高等女学校に、1948年(昭和23年)には松本蟻ヶ崎高等学校になった。父の実家が蟻ヶ崎高校の北側にあり、子供の頃お祭りなどに訪れた、裏から高校までは田んぼがあり、まるまる校舎が見えた。

4番は、開智小学校で1873年(明治6年)に第一番小学開智学校として全久院を仮校舎で開校した。ここに1876年(明治9年)校舎が建築された。1888年(明治21年)開智尋常小学校となる。1963年(昭和38年)ここの場所から移転した。子供の頃本町から女鳥羽川添いに西にいくと門があり中を見た記憶がある。また町の発展を示す記述も見つけた。「松本尋常高等小学校は、児童の増加にあわせて、開智部を本部として、源池部(明治37年設置)、田町部(同43年設置)、筑摩部(大正7年設置)、旭町部(同11年設置)、田川部(同14年設置)、井川部(同14年設置・のちに鎌田部)、清水部(昭和3年設置)の各部の校舎を設置した。」

3番は、1876年(明治9年)に第17番変則学校として開智学校に創立、1880年(明治13年)には公立松本中学校となり、1885年(明治18年)新校舎が松本城内二の丸に出来て移つた、1935年(昭和7年)に現校舎(蟻ヶ崎)に移つた。1948年(昭和23年)長野県松本深志高等学校になった。

1番・5番・6番・7番は、子供の頃の県町にある学校となる。私は昭和23年生まれです。生まれてから大学1年(1968年)までは実家から学校に通っていました。通つた「道」の記述にまだどつちつけませんが？

5番は旧源池小学校、多分尋常小学校の源池部が創立(1904年)年となっているのではないかと思います。ここから現在の場所にいつ移転したかは見つけられなかったが、平成16年(2004年)に源池小学校100年史が刊行されていますので、学校にいけば見せてもらえると思います。(まてよ、実家が移転先の場所にあった?)この地には、1980年(昭和55年)まで松本警察署がありました。訪れた記憶があるのは、250cc以下のバイク免許を取りにいった時、16歳(1964年)になったときだと思います。学科は建物の中の部屋、実施が建物の北側の庭で行われた。これからバイクを乗り始めました。普通免許をとつたのは大学2年の時(バイクで教習場に通いました)、免教証には普通免許の交付年月日の昭和44年(1969年)9月18日が記されていました。

6番は、旧松本商業学校、1913年(大正2年)にここに新築移転した。創立は1898年(明治31年)上土町に私立戊戌学会として、1911年松本商業学校に、現位置には1936年(昭和11年)新築移転した。1948年(昭和23年)松商学園高等学校になった。この跡地と思われるところに1941年(昭和16年)松本女子実業

高等学校本館が竣工し、それにもなつて周辺道路が整備され、旧松本商業学校跡(右図6番)から中林橋までを若松町と名付けた。町名の由来は、松は竹・梅あるいは鶴とともにめでたい取り合わせとされ、また松本の松にも通じるので、松の若葉のようにみずみずしく発展することを願つて命名された。」幸町「旧源池小学校(右図5番)から中林橋までの南北に長い町で、大正十一年長沢町から分離して新しくできた町である。町名は、この地の開発に貢献した石井祐助氏が父親幸正氏に因んでその一字をとり、また地域の人々の末長い「しあわせ」を願う意味も込めて幸町と名付けられた。」上図は昭和8年の地図です。わかる学校を1番から7番まで印をしました。

高校が創立され、1948年（昭和23年）に松南高校となった。その後2010年（平成22年）閉校となり、現在松本秀峰中等教育学校になっている。私の子供の頃の松南高校の庭はチンチン電車（大正13年～昭和39年）路線に面しており、庭で遊んだ記憶がある。チンチン電車で本町などに行くのに自宅からこの停留場いき浅間方面から来るのをほぼ直角に曲がる路線の角に立つてくるのを見て乗っていった、停車場が近づくと「チンチン」と鳴らして知らせた。（現在は道路が改良されている）

7番は、1923年（大正12年）松本第二中学校として創立、1948年（昭和23年）松本県ヶ丘高等学校となる。子供の頃は近くて遠い存在でした。この南には畑を借りていて何度か手伝いをさせられたがここまで足を延ばさなかった。女房の若いころここで家庭科（本業は松商学園）を教えた学校でもある。

1番は、松本高等学校（旧制）で1919年（大正8年）松本中学校に間借りで創設、ここに1920年新校舎と学生寮「思誠寮」が新校舎が出来た。1949年（昭和24年）信州大学発足に伴い包括される、信州大学文学部として1973年（昭和48年）まで使われた。現在松本市が管理し「あがたの森」として利用されている、建物は講堂と一部校舎が残されている。思誠寮は1983年まで使われていたがとりこわされ、横田に新築された。実家と近いめかかわりが深くいろいろな面でお世話になった。

私の小学時代、とくに4年～6年（1958年～1960年）の時、その時の源池小の学区（現在は少し違います）の町名をわかる範囲で書いて見ました。下図は現在の地図です。黒が江戸後期の城下町の町名、緑が明治以降の町名です。青が国道403号線で、小学時代は中町（善光寺街道）を通っていました。橙色は県道は63号線（松本塩尻線）で塩尻までの路線です。現在もバス路線「中山線」（松本—中山—古屋敷）が走っています。☆印紫はわかる同級生の家を記しています。中町・小池町・宮村町・天神？の本屋（上条栄規君）・長沢町・幸町・若松町・南源池・北源池・東源池・埋橋・弥生町（？）・県町北・県町南となり西にはみ出た西小松・南にはみ出た筑摩東の町名が出てきた。



小学生の頃、県町南の町内行事をよく覚えている。町内運動会は源池小学校の校庭、ときには松商学園の校庭で、町内をさらにいくつかの区(?)に分けて競い、種目ごとに豪華(?)商品が出たのが魅力だった。夏休みのラジオ体操は朝早いのが苦手であったのか毎日はいけなかったと思います、場所は県の宮でした。毎年4月にお祭りがおこなわれ、町内しめ縄が張られ、お宮に行く通りには屋台が出て、さらに境内に、芝居舞台が作られ観戦した。当時から信大「思誠寮」の寮生が神社に・・・言われていたが遭遇したことはなかった。神社のすぐそば(松商学園の通り)には町の公民館があり、なにかの催しに何回か参加した。



県町南の源池小学校前の南北の通りを境に夏の「青山様」(女の子はぼんぼん)と冬の「三九郎」は東西に分けての行事であった。「青山様」は、神輿をすぎの葉で埋め、子供が担いで町内を回り、各家の玄関先にて「青山さまだいわっしょいこらしよ?」神輿を上下に動かし賽銭をもらってくる。小学生の上の人が中心となり神輿をかつぐ、下級生はただついてまわることから始まった、お盆の何日かかけて西地区をまわった。一度だけ西と東が源池小学校(共通の回る場所と思われる)同時に出会ったとき張り合い心か喧嘩心がみんなに感じられた事を思い出す。「三九郎」は、正月に家の玄関に飾るしめ飾り(松飾り)を子供たちがリヤカーで各家を回って集めて、薄川の河原で、大人が用意した木と木組みされたところに、縄を張ってほぼ円錐になるように着けていく、藁や達磨なども加わり家屋が完成した感じになる、もちろん中に人は入れます。こどもたちは順番でこれを守る(他地区からの火つけがある/遊び感覚だった)ことをやる。川の流れをはさんで対岸は筑摩東地区の円錐がたつ、多いときには大きなものが5つたつのに、こちらは大きなものがひとつに小さいのものがひとつと圧倒的に規模では負けていた。夜になると、みんなが柳の枝に繭をかたどっただんごを付けた物をもって集まり始め、開始時間まで無事だった円錐に火を放つと夜空が赤く染まる、しばらく燃えたあと骨組みも崩れ「おき」になったところでだんごを焼いて持ち帰って食べた。

県町南の商店街が昭和初期(前々ページ/昭和8年の地図)の状態にどうなっていたのかは読み取れないが城下町を中心に町が広がっていき、餌差町からの山辺道には清水の街が形成されており、さらに清水周辺はまだまだ住宅は少ない状態なので、県町南の商店街もこのころには、店屋街の元が出来ていると思われる。

国土地理院のサイトから1965~1969年(私が高校2年から大学)と2011年(平成23年)の航空写真を探し出した、1965~1969年の航空写真以前(小学生~中学生)の記憶では、メインの通りに面しているところは家が建っていたが、路地など少し入ったところではまだいくつかの畑が残っていました、若松町と埋橋との境のところには果樹園もあった、また実家も含め家のまわりの空いている土地で畑をやっていた。2011年の航空写真になると住宅で埋め尽くされています。

国土地理院のサイトから1965~1969年(私が高校2年から大学)と2011年(平成23年)の航空写真を探し出した、1965~1969年の航空写真以前(小学生~中学生)の記憶では、メインの通りに面しているところは家が建っていたが、路地など少し入ったところではまだいくつかの畑が残っていました、若松町と埋橋との境のところには果樹園もあった、また実家も含め家のまわりの空いている土地で畑をやっていた。2011年の航空写真になると住宅で埋め尽くされています。



県町南航空写真 (2011年) ↓



赤線は私が中学 (清水中学校) に通った道 (路地) です、道は当然未舗装で1部 (赤と青線) 人が通れる幅しかない道でした。

私の小学校頃 (1955~1960年) の県町南の商店街を記憶だけで書いてみました。私がよく利用したのが、文房具店と貸本屋 (駄菓子屋) でした。貸本は「月間まんが本」をかなり取り合いで順番待ちもしばしば、他は遊びのための買い物 (めんこ・ビー玉・模型飛行機など) がほとんどでした。大学1年まで下駄をはいていたので下駄屋さん、風呂屋さん (銭湯) は家に風呂が出来るまではよくいった、魚屋・八百屋・豆腐屋・菓子屋は親についていった。自転車屋は、道も舗装が少なくパンク修理に利用した。そうそう当時はみな自転車練習はいきなり大人用自転車で行った。酒屋と薬局とポスト (はがき) 県町北にいかないとなかった。多くの町の商店街は時代とともになくなってしまいました (時代の流れかな?)。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

左図は、1965~1969年の航空写真で正確な年号は特定できませんでした。源池小学校・松商学園・信大文理学部とも旧校舎となっています。

